

平成10年3月卒業

# 第 68 期

平成8年秋季～9年夏季



## チーム紹介

### 小粒ながらまとまり

全体的に小粒ではあるが、まとまりのあるチームに仕上がった。

右下手投げの主戦・浅野、右上手投げの児玉、左上手投げの船山、左上手投げの鎌田と、投手陣は豊富。しかし、勝つためには浅野の力に頼るところが大きい。切れのよいストレート、左打者の胸元をえぐるスライダー、大きく曲がるカーブ、シンカーで三振の山を築く。監督、選手たちの信頼感は抜群だ。

ヒットをつないで得点に結び付けるのが打線の特徴。1番から9番までムラがなく、どこからでも得点できる。小笠原は打撃センスがよく長打を期待できる1番打者。2番の斎藤は小技がきき、バント、エンドランなどバリエーション豊かなつなぎ役。塙本、船山、児玉ら主軸はしぶとい打撃が身上でチャンスに強い。下位の澤田、小澤、菊地は選球眼がよく、自慢の足で塁上をかき回す。

最大の課題は守備。新チーム結成以来、失策で敗れた試合も少なくない。主戦・浅野を支え打線の奮起を待つためにも、一つひとつ確実なプレーが求められる。

#### ◎平成8年

##### ・秋季県北

能代 8 - 3 花輪

能代 9 - 1 能代工

能代 4 - 7 能代商

##### ・全県選抜

能代 6 - 3 横手

能代 4 - 3 経大付

能代 8 - 7 大曲工

決 勝 能代 4 - 10 能代商

・東北大会（宮城県）

能代 1 - 5 学法石川

#### ◎平成9年

##### ・春季県北

能代 22 - 3 小坂

能代 6 - 7 大館鳳鳴

5・6位決定戦

能代 3 - 2 鷹巣農

・第45回全県選抜（18校出場）

能代 7 - 0 横手工

能代 4 - 3 能代商

能代 1 - 8 秋田商

##### ・能代選抜

能代 6 - 0 大館鳳鳴

能代 7 - 13 能代商

##### ・全県大会

能代 5 - 2 秋田

能代 3 - 2 能代商

能代 15 - 6 西仙北

準決勝 能代 3 - 11 金足農

能代	1	0	1	0	0	1	0			3
金足農	1	3	3	1	3	0	×			11

（能代）浅野・児玉－塙本

（金足農）工藤－吉田

〈部長〉平野 信行

〈監督〉納谷 聰

〈部員〉3年生

○塙本 俊児

鎌田 文仁

小沢 司

佐藤 哲也

船山 誠悦 石川 晃  
小笠原州平 児玉 大介  
菊地 拓也 沢田 宗作

斎藤 由宏 田中 洋平  
浅野 広幸



### チーム紹介

#### 攻守ともにスピード

例年に比べやや小粒な感は否めないが、攻守にスピードのあるチームに仕上がった。

典型的な先攻逃げ切りのチーム。その軸になるのはやはり投手陣だ。柱は右の本格派・工藤大。力のあるストレートと、直球をより速く見せるカーブのコンビネーションで勝負する。課題はスタミナ。連投に耐える体力と競ったときの精神的な粘りを養うために、連日200球の投げ込みを続けている。

相手打線の目先を変える意味でも、いずれも技巧派の右の赤川と幸坂和、左の桜田がそれぞれ短いイニングをつなげるよう、安定感を高めたい。

投手をもり立てるバックの守備は堅い。捕手の主将・奈良を中心によく鍛えられている。

先行する上で必要な攻撃力では、一発こそないものの、機動力が光る。トップ児玉をはじめ俊足の選手が多く、相手投手を脅かす。勝負強い山谷洋、伊藤の中軸の前に走者を置き、打席と塁上から相手投手に重圧をかけたい。

#### ◎平成9年

・秋季県北

能代7-5小坂

能代3-5能代商

5・6位決定戦

能代7-15大館鳳鳴

#### ◎平成10年

・春季県北

能代6-2十和田

能代1-2花輪

#### 5・6位決定戦

能代9-1大館商

・全県選抜

能代5-4鷹巣

能代1-8金足農

・能代選抜

能代6-7大館工

・全県大会

能代3-4横手

能代	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
横手	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1X	4

(能代) 工藤(大) - 奈良

(横手) 柴田・佐藤-安藤

〈部長〉 平野 信行

〈監督〉 納谷 聰

〈部員〉 3年生

◎奈良 成基	近藤 克利	佐々木雅彦
伊藤 博行	金 智和	荒川 隆
近藤 大信	赤川 豊幸	工藤 純一
山谷 歩	幸坂 和人	桜田 善崇
工藤 大樹	金野 博道	伊藤 墓

## 硬式野球部道場

### 佐々木 雅彦

ある夏の暑かった日、自分は能代高校の校歌と出会ったことを今でも鮮明に覚えている。それは小学校6年生の時で、夏の甲子園1回戦・能代対佐賀東の試合を通してのことだった。父は食堂の仕事をしながら、自分と弟は茶の間でテレビを見ていた。父は集まっていたお客さんと一緒に憂っていて、勝利の瞬間小さな食堂で大声で能代高校の校歌を歌っていた。そのとき父が自分に、「雅彦、能代高校の校歌っていいべ、いい歌だべ」と言いました。今思っても表現は難しいんですけど、何かこうブルブルッとした思いと、自分は能代高校で野球をやって甲子園に行く!!この思いだけで能代高校へ入学したように思います。

自分は岩崎中学校でしたので、3月31日に下宿先へ引っ越しました。部屋に荷物を納め終わって父が帰り際に一言、「能代市内の連中とか選ばれた奴らは、練習に参加していると思う。おまえも行きたいんだったら、事務長の太田先生へ行って聞いて見ろ」。次の日、太田先生に会いに行きました。その時、太田先生に一言、「入学式終わってから入部しろ」自分は「はい、分かりました」今思えば時間にして数十秒間だったと思いますけど緊張しっぱなしでした。この時と同じような緊張感を大学の就職活動の、最終選考面接で会場のドアノブを回すときにも経験したような思い出が心の中に残っています。

記念史の趣旨とは少し外れたように思いますが、自分の能代高校硬式野球部での3年間を述べます。

1年時（夏ベスト8）、応援を一生懸命頑張った思いと、3年の清水先輩と室内練習場で夜遅くまで練習し、日曜日には清水先輩の家で夕御飯を御馳走になりました（紙面を借り、御礼申し上げます。本当に有り難うございました）。その秋は、県大会準優勝そして東北大会1回戦・学法石川に敗退で甲子園の道を断たれました。来年の夏こそは甲子園へ行く!!部員皆で誓いました。

2年時（春ベスト4・夏ベスト4）、自分も試合で使ってはもらいましたが、先輩方との力量差を痛切に感じました。特に忘れもしないあの夏は、初戦から敗退までの対戦校全てが甲子園出場校で、連投連投のエース浅野さんの勇姿が今でも思い出されます。それと同時に甲子園への道は遠く厳しいものと感じました。

3年時（春ベスト8・夏2回戦）、自分にとっては最後の夏、スタメンを外されサードコーチャーでの出陣でした。相手は横手、1点を争う緊迫した中いつか代打の出番があると信じていました。そして能代1横手3の8回表2アウト1塁3塁で出番が訪れました。「自分はサードコーチャーにいる時から代打で出番があったとき、もし打てなかったら先の人生で絶対野球はしないと心に決めていました」。そんな思いを胸に、バッターボックスへ入る直前、ある言葉が、脳裏を駆け巡りました。それは、大会前の壮行式での太田会長の一言でした。「苦境に立たされたら、父さん母さんのことを思い出し、感謝しろ!!」自分は、今まで野球を続けさせてくれた両親へ感謝の気持ちなど考える余裕など無かつたけど、なぜか自然と応援席を見てバッターボックスへ入ったことを記憶しています。結果は、三遊間を抜ける安打、後続は断たれたものの9回表で同点、そして延長の末サヨウナラ負け。こうして最後の熱い夏は終わりました。（5年後、当同期だった赤川と自分の弟達が同じく1回戦横手それも延長戦、弟達は勝ち何か因縁めいたものを感じました。）

とりとめの無いことばかり書きましたが、高校野球は2回戦1回負けの自分です。能代高校硬式野球部道場で修行した3年間を誇りに思いそれを糧とし、御世話になった皆様への感謝の気持ちを忘れず、これから社会人としての人生を、初戦そして2回戦と勝ち進めるよう頑張ります。

最後に好きだった言葉で文面を閉じます。『闘志なき者は去れ』

平成12年3月卒業

# 第70期

平成10年秋季～11年夏季



## チーム紹介

### 機動力を生かして

他チームと比べると選手が小粒で迫力に欠けることは否めない。それでも、なんとか互角の試合に持ち込もうとする徹底した工夫がことしのチームには感じられる。

その工夫のひとつが足を積極的に生かそうとする姿勢だ。納谷監督は「昨年の秋の段階から足を絡めた攻撃を意識してチームづくりを進めてきた。足を絡めた攻撃のうまさだけをみればここ数年で1、2を争うはず」と胸を張る。そうしたすきのないプレーを可能にしているのも2年生の時からレギュラーを獲得していた山谷、児玉、門間など経験豊富な選手がいたから。相手投手をじっくり観察して機動力を使って攻撃を組み立てるのだという意識が根付いている。

守備力は上々だ。「キャッチボールなど基本練習には相当時間を割いた」と納谷監督がいっただけあって、伝統的に多かった悪送球などの単純ミスは激減、守備にも「不要なミスは極力減らしてすきのない野球を」という考えが徹底している。

残るは投手だ。これまで主戦の高橋を中心に登板させていたが、まだ2年生でもあり経験不足も災いして、全県でも上位を狙うチームを相手にするには高橋一人だけに頼るのはいささか危険が伴う。「当然、高橋中心の投手陣を考えている」と納谷監督は言うが、第二、第三の投手をそろえることが求められるだろう。

◎平成10年

・秋季県北

能代5-6小坂

◎平成11年

・春季県北

能代8-2大館商

能代2-3鷹巣

5・6位決定戦

能代12-5米内沢

・全県選抜

能代7-5増田

能代1-11金足農

・能代選抜

能代1-18経大付

・全県大会

能代14-6五城目

能代7-0雄物川

能代10-7大曲工

能代7-6秋田工

能代0-7鷹巣

能代	0	0	0	0	0	0	0	0
鷹巣	0	0	1	0	6	0	×	7

(能代) 松森・加賀谷・高橋一平川

(鷹巣) 成田一津谷

〈部長〉 平野 信行

〈監督〉 納谷 聰

〈部員〉 3年生

◎山谷 洋輔 鈴木 大祐 三浦 信幸

伊藤 秀憲 平川 祐毅 加藤隆一郎

薄田 穂 佐藤 大介 児玉 公大

幸坂 直 斎藤 紀仁 門間 良太

佐々木克幸

## 喜び

主将 山谷 洋輔

能代高校硬式野球部での3年間は自分にとって忘れられない思い出であり、また人生の糧となる多くの貴重な経験を得ることができた充実した日々であったように思います。

私が思う一番の思い出はやはり、3年夏の甲子園予選大会でベスト4まで勝ち進んだことです。大会では、計5試合したのですが、その中でも大曲工戦と秋田工戦が特に印象深いです。

大曲工戦では、ベスト8をかけての対戦でしたが、この試合はとにかく楽しく野球ができました。それは、緊迫した場面、チャンスの場面など1つ1つの場面でチーム全員が一丸となって勝とうと盛り上がっていたからです。声をかけ合ったり、アドバイスしたり、得点が入る度、皆で喜びを分かち合うという野球の本来の楽しさをまた1つ教えられたような気がしました。

秋田工戦はベスト4をかけての対戦でした。初めての相手であり、シード校の金足農を破って勢いのあるチームだったので、試合経験のある能代工の友達に相手チームの情報を教えてもらい、研究していたのを思い出します。試合では、チームの調子がよく、またデータも生かされたせいか、接戦で互角の試合をすることができました。何と

いってもこの試合で印象に残る場面は延長でサヨナラ勝ちをしたことです。野球を続けてきて初めての経験でしたし、チームの皆も体いっぱいに嬉しさを表現し、喜び合ったことは今でも忘れられません。そしてまた、応援してくれた父母の方々、諸先生方、生徒の皆も一緒になって喜んでくれたこともとても嬉しかったです。

最後の夏の大会では、甲子園出場という夢は叶いませんでしたが、自分たちの力を十分に発揮して最高の試合をすることができてとても満足でした。これも監督はじめ、コーチ、部長、OBの方々、先輩、後輩、校長先生、そして諸先生方、父母の方々、生徒の皆のおかげです。

今こうして高校野球3年間を振り返ると改めて自分たちの成長は、周りの人たちの支え、協力が何より大きく、ここまで勝ち進むことができた一番の原動力であったように思います。また、技術面などの他にも精神面や一人の人間として大切な部分、礼儀、人への気づかい、物を大切にするということ、人への感謝の気持ちなどの多くを学ばせていただきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今度はOBの1人として能代高校硬式野球部に顔を出して自分の教えられる範囲でアドバイスの1つでもできたらと思います。



### チーム紹介

#### 小粒ながらも安定感

投手陣は昨年同様、右の高橋が大黒柱。制球力とスピードを兼ね備えた強気の投球が持ち味で、

リズムに乗れば相手チームは攻略に苦労するはずだ。2年生ながら加賀谷と松森も試合経験が豊富で高橋にひけをとらない実力を持つ。

メンバーのほとんどは170cm前後と小ぶり。打撃力に物足りなさがあるのは否めないが、上

位打線が粘って四球や内野安打で出塁すれば、下位の打者もしぶとさを発揮する。攻撃陣はトップ佐々木俊と2番金（主将）がキーマン。佐々木俊は50m5秒5前後の俊足を生かし、好機をつくってかき回すタイプ。金は3番に座った経験もあり、打撃力と小技が光る。3番・渡部、4番・安田も好調を維持。

自慢の守備陣は、中堅佐々木俊が俊足を生かして広い範囲をカバー。内野は捕手後藤、2塁舛屋、遊撃川尻将の2年生トリオが、抜群のボールさばきでムードを盛り上げる。3年生の一塁金と三塁渡部が精神的なかなめとなり、チーム全体の守りのリズムを支える。

#### ◎平成11年

・秋季県北

能代10－5花輪

能代0－5能代商

5・6位決定戦

能代5－1大館商

・全県選抜

能代2－5本荘

#### ◎平成12年

・春季県北

能代6－7小坂

・能代選抜

能代6－7大館鳳鳴

・全県大会

能代6－1西仙北

能代4－7大曲工

大曲工	0	0	0	1	3	0	2	1	0	7
能代	1	0	2	0	1	0	0	0	0	4

(大曲工) 鈴木一佐々木

(能代) 高橋・松森・加賀谷・高橋  
—後藤

〈部長〉 平野 信行

〈監督〉 納谷 聰・柴田創一郎

〈部員〉 3年生

○金 辰徳 安田 慎也

能登 直哉 渡部 将沖

松山 洋平 高橋 直樹

佐々木俊友 佐々木智也



#### チーム紹介

##### エース軸に堅い守り

抜群の安定感を誇るエース加賀谷を軸に、ことしも県内屈指の守備力で大会に臨む。

右腕・加賀谷は130キロ代の直球と、切れのあるカーブ、スライダーが持ち味。コーナーを突く丁寧な投球は、終盤になっても崩れない。柴田監督も「どこが相手でも4点以内に抑えてくれるはず。精神の強さが彼の最大の武器」と信頼を寄せ

る。

守りでリズムをつかむチームカラーはことしも健在。内野は昨年から出場している捕手・後藤、二塁・舛屋、遊撃・川尻のトリオが、堅守で加賀谷を盛り上げる。中堅・三浦は俊足を生かした守りが特長で、外野の中心的な役割を果たす。爆発的な打撃力はないものの、好機にスクイズや内野ゴロなどで確実に1点をもぎ取る練習を積んだ。「粘り強くプレーして、甲子園を目指す」と舛屋主将は並々ならぬ闘志を燃やす。

◎平成12年

・秋季県北

能代10-3 大館商

能代1-4 能代工

5・6位決定戦

能代3-2 能代商

・全県選抜

能代8-3 経大付

能代13-6 大曲農

能代0-10 秋田商

◎平成13年

・春季県北

能代12-0 二ツ井

能代3-4 能代工

5・6位決定戦

能代9-10 合川

・能代選抜

能代1-2 大館工

・全県大会(52校出場)

能代8-1 二ツ井

能代3-2 大館

能代5-1 鷹巣

能代3-4 秋田商(延長13回)

秋田商	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	4
能代	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3

(秋田商) 高橋・木屋・富田-松橋

(能代) 加賀谷-後藤(清)

〈部長〉 平野 信行・藤原 孝一

〈監督〉 柴田創一郎

〈部員〉 3年生

◎舛屋 健太	加賀谷 渉
川尻 将光	川尻 裕介
菊池 洋吾	川村 啓吾
工藤 彰	信太 伸人
近藤 寿昭	中山 悠平
松森 貢平	細田 佳仁
後藤 清人	加藤 心平
桜庭 俊宏	本田 翔
野村 優喜	

### 3年間の野球生活をふり返って

主将 舛屋 健太

多くの方々に支えられ、私達72期生は3年間野球に思いっ切り打ち込むことができました。今ふり返ってみれば、仲間達と汗を流し、高校野球ができる幸せをもう一度味わってみたいという思いがあります。

3年目の夏、私達は秋田商業に惜しくも延長戦で負けたわけですが、2年の秋の全県大会で10対0で負けた相手に対し、やればここまでできるのだということを自分達が認識し、そして能代の方々へ感動を伝えることができたと思います。結果は負けですが悔いは残りませんでした。私達がここまで頑張れたのは、最高の野球環境の中で、良き指導陣に恵まれ、最高の仲間達がいたからだと思います。どんなにつらい時でも、励まし合った仲間との思い出は私にとって永遠の宝物になりました。

入部して初めてのノックの時、当時の監督であった納谷先生にバットを投げられたのを今でも鮮明に覚えています。当時はほんとに頭がパニックになるくらい怖かったです。でも、それがあったから今は誰に怒られても怖くはないと思います。そして、納谷先生が怒ってくださったから、高校3年間の野球人生が良い方向へむかったのだと思います。

高校3年間の野球生活で最も学んだことは、感謝の気持ちを持つということ。応援してくださった方々、テストの時いろいろ面倒をみてくださった先生方、そして夜遅く帰った私を支えてくれた両親、私達はたくさんの方々に支えられて野球をやっているのだという気持ちを持つことが、自分のやる気にもつながり頑張ることができました。本当に感謝しています。この感謝の気持ちを持つということは、自分を大きく成長させてくれると思います。私達第72期生は、全員何事に対しても感謝の気持ちを忘れず、それぞれの道へ進んでいます。感謝の気持ちを持つということを教えてくれた柴田監督、本当にありがとうございました。

## 秋田商戦

### 熱投225球悔いなし 能代 加賀谷

気力の限りを尽くした225球。3時間半に及ぶ試合で力投を続けた能代の主戦・加賀谷涉は「最後まで仲間と自分を信じられた」と振り返った。

加賀谷は二ツ井戦、大館戦、鷹巣戦に続き、この日で4連投。しかし、「今大会で一番調子がよかったです」(加賀谷)の言葉通り、直球が良く走り、カーブ、スライダー、そして秋田商戦に備え“秘密兵器”にしてきたシュートが狙いどおりのコースに決まった。

能代は昨年秋の県大会3回戦で秋田商と対戦。0-10でコールド負けを喫した。以来、「打倒秋

田商」がナインの目標となった。

さらに、加賀谷に奮起を促したのが春の地区大会で能代工に3-4、合川に9-10で競り負けたことだ。

この後、加賀谷はスタミナ不足を補うため、走り込みを増やした。暑さで倒れ、救急車で運ばれたこともあったという。この走り込みが200球以上を投げ抜くスタミナを生み、同時に「自分は人の何倍も走りこんだのだ」という精神的な支えにもなった。

「秋田商と戦うのが最終目標だった」と語る加賀谷。「練習したこと出し切り悔いはありません」と言い切った。



## チーム紹介

### 信頼が厚い強力打線

「猛打の能代」が久々に復活した。1番から5番までが長打力と勝負強さを持つ。「投手陣が失点を5点以内に抑えればうちの勝ちパターン」と、柴田監督も全幅の信頼を寄せる強力打線だ。

三浦、高橋、田中は昨夏も主軸。得点力のあるチームを生かすも殺すも鍵を握るのは投手陣を含めた守備。駒不足が懸念されていた投手陣は昨冬から本格的な投げ込みを始めた後藤が春先から急成長。コーナーに丁寧に投げ分ける制球力が信条。昨秋はエースナンバーを背負っていた川田は、緩急ある投球が持ち味。2人とも完投能力がある。俊足、強肩をそろえた外野は問題ないが、内野の守備にやや不安を残す。

## ◎平成13年

### ・秋季県北

能代12-0米内沢

能代6-7能代工

### 5・6位決定戦

能代11-3花輪

### ・全県選抜

能代12-4角館

能代1-9経大付

## ◎平成14年

### ・春季県北

能代14-0米内沢

能代5-1能代商

能代6-5大館

### 決勝 能代4-3能代工

(10年ぶり16回目の優勝)

### ・全県選抜

能代7-10秋田中央

・能代選抜	能代 8 - 4 本荘	能代 4 - 5 能代商	・全県大会	能代 1 - 2 大館工 (延長13回)
能代	0 0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 1			
大館工	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 2			
(能代)	後藤・川田・宮田一伊藤			
(大館工)	佐藤(大)一佐藤(智)			
・部長	藤原 孝一			
・監督	柴田創一郎			
・部員	3年生			
◎高橋 野人	柿崎 誠	成田 祐平		
伊藤 和之	金野 優作	三浦 裕太		
工藤 拓美	薩摩 朗	後藤 晃		
佐藤 俊介	田中 泰貴	佐藤 元		
瀬川 功仁	川田 和孝	安井 公健		
大山 聰	佐々木俊勝			



### チーム紹介

#### 投手力は例年以上に

2枚看板の投手を軸に守り勝つタイプに仕上がった。

チームの大黒柱である宮田は右のサイドスロー。切れのあるスライダーを武器に簡単には連打を許さない。成長著しいのが2年生右腕の檜森。130キロ台の直球には威力があり、春季県北地区の準決勝では1失点で完投勝ち、自信を付けた。控えの千葉も完投能力があり、投手層は厚い。

攻撃の要は1番・武藤と4番・佐々木。長打力のある武藤は小技も得意で、チームを引っ張る。佐々木は右方向の打撃もできる柔らかさを持つ。この2人の間に器用な小杉山を控え、得点機を広げる。守備のキーマンは主将で捕手の志戸田。巧みなインサイドワークで流れを作り、野手陣を引き締める。

#### ◎平成14年

##### ・秋季県北

能代 8 - 5 鷹巣

能代 8 - 5 花輪

能代 10 - 3 鷹巣農

決勝 能代 7 - 6 大館鳳鳴

(8年ぶり8回目の優勝)

#### ・全県選抜

能代 1 - 5 経大付

#### ◎平成15年

##### ・春季県北

能代 10 - 3 米内沢

能代 14 - 6 大館工

能代 6 - 1 能代工

決勝 能代 1 - 3 鷹巣

#### ・全県選抜

能代 10 - 4 秋田修英

能代 3 - 8 秋田

#### ・能代選抜

能代 3 - 4 湯沢商工

#### ・全県大会

能代 6 - 5 横手

能代 5 - 4 西目

能代 3 - 8 湯沢商工

能代	0	0	0	0	1	0	1	1	0	3
湯沢商工	2	0	2	0	4	0	0	0	×	8

(能代) 宮田・桧森・堀内・千葉・赤川—志戸田・伊藤(順)

(湯沢商工) 高橋(健)—高橋(護)

〈部長〉 藤原 孝一

〈監督〉 柴田創一郎

〈部員〉 3年生

◎志戸田 健	千葉 北斗
伊藤 真怜	宮田 真吾
小杉山孝樹	近藤 公治
近藤 貴之	佐々木幹人
佐藤 正博	赤川 泰寛
伊藤 順也	大友 啓史
鈴木 和大	

## 仲間と共に

### 主将 志戸田 健

第85回全国高校野球選手権記念秋田大会。平成15年7月18日、最後の大会初戦で、今大会初の延長戦を迎えた。対戦相手は横手高校。ここで負ける訳にはいかなかった。1年次には準決勝で秋田商に、2年次は初戦で大館工業に延長戦の末負けた試合を思い出していた。あの時、先輩達と流した涙を忘れてはいけないと思っていた。「自分達が追いついて入った延長。負けるはずがない。必ず勝てる」とチーム全員がひとつになりそう信じていた。

延長11回裏、相手投手の暴投によりサヨナラ勝ち。「勝ちたい」という気持ちを最後まで持ち続け、あきらめなかつたのが相手にプレッシャーを与え、ミスを誘ったのだと思った。まずは、第1目標だった初戦突破。延長サヨナラ勝ちでチームの雰囲気も盛り上がっていた。

欲ばらずに1戦に集中しようと気を引き締めて迎えた2回戦は、西目高校。2回までに4点をリードされ、苦しい試合だったが3回に追いつき、1点リードした。5対4のままゼロが並び、ひとつのミスも許されないプレッシャーで押しつぶさ

れそうになりながらも最後までおさえることができた。試合が終了して、いっぱい、いっぱいいた緊張から開放され、勝利した喜びを、今も鮮明に憶えている。初戦、2回戦とも、はらはら、ドキドキの1点差での勝利だった。

3回戦は、この年新しくなった、こまちスタジアムに場所を移し、シード校湯沢商工戦。湯沢商工とは、能代招待試合でも対戦していたので、勝てない相手ではないと思っていた。

こまちスタジアムの立派な球場に舞い上がった訳でも、テレビ放送を意識した訳でもなかったが、いつもの調子がないまま試合は進み、5回で6対0とリードされてしまった。このままでは終わらないと、みんなが思っていた。しかし3点は入れたが結局8対3で敗れ、最後の夏は終わった。

試合後は泣けた。負けた悔しさはもちろんだが、ここまでがんばれたという満足感もあった。今にして思えば、あの時の涙は、ひたすら甲子園出場を夢見てがんばった3年間への惜別の涙だったのかもしれない。

能代高校硬式野球部の3年間はとてもよい経験になったし思い出にもなった。これから長い人生において、野球部での経験がかならず役に立つ時がくると信じている。苦楽を共にした仲間達とは一生の付き合いになっていくことだろう。

松陵会のますますの繁栄を祈念しております。